



はじめに



コンピュータ・グラフィックスで復元した遠江国分寺

遠江国分寺跡は、大正12年に国の史蹟保存地に指定され、昭和26年には国の文化財保護委員会(現文化庁)の指導のもと磐田市教育委員会による緊急発掘調査が行われ、翌年に特別史蹟の指定を受けました(指定面積約2.5ha)。昭和42~45年には市制20周年及び明治100年記念事業として、環境整備及び史跡公有地化事業が実施され、史跡公園として整備されました。また、コンピュータ・グラフィックスを使っての遠江国分寺の復元作業や、遠江国分寺に関する講演会やシンポジウムなどの啓発活動を平成9年から毎年継続して行うなど、ソフト面の対応も図ってきました。

しかし、昭和40年代の整備は、主要伽藍の基壇復元と植栽による回廊の表示という手法を採用しており、それぞれの建物の場所には説明板を設けて遺構の解説をしていますが、建物がイメージしにくく、また施設なども老朽化が目立つようになりました。

平成17年4月、市町村合併により誕生した新磐田市では、重点プロジェクトとして、遠江国分寺跡の再整備を掲げており、この歴史遺産を未来へと継承していくことの共通認識が得られました。これにより、



昭和40年代の整備工事のようす

遠江国分寺跡再整備に向けての動きがスタートすることとなりました。

平成17年に遠江国分寺跡整備委員会が組織され、平成18年3月には『遠江国分寺跡整備基本構想』が策定されました。

次いで18年度から26年度にかけて史跡指定地内の発掘調査を行い、さまざまな発見がありました。

今回、これらの成果を踏まえて『遠江国分寺跡整備基本計画』を策定しました。

もっと国分寺を楽しんでもらうために…

6つの提案

全体を造成します。

遺跡と関係のない部分の段差や側溝をなくし、利用しやすい公園をめざします。

園路を整備します。

散策ルートを設定し、歩きやすい公園をめざします。

樹木を整理します。

樹木により遺跡が損壊しているところがあるため、遺跡を保護すると同時に暗がりなどが少ない公園をめざします。

排水対策を パワーアップします。

排水路の構造を検討し、大雨時にも安全・安心な公園をめざします。

ベンチを設置します。

あすまや四阿とともに誰もがくつろげる公園をめざします。

楽しみ倍増のソフトメニュー

案内看板やパンフレット、ARソフト^(※)を使って、より魅力的な歴史学習ができる公園をめざします。

AR…拡張現実。実際の遺跡の場所でスマートフォンなどをかざすと建物が画面上に再現されるようなソフト。

わたしたちの国分寺 そして未来へ

国分寺跡整備事業は、整備したらそれで終わりというわけではなく、むしろ

整備後に公園をどのように生かし、活用していくかが重要です。

磐田市の宝である国分寺跡を子孫に伝え、未来につなげていきます。

わたしたちの国分寺公園

～遠江国分寺跡整備基本計画のあらまし～

平成29年3月

編集・発行 磐田市教育委員会事務局教育部文化財課

わたしたちの国分寺公園

～遠江国分寺跡整備基本計画のあらまし～



磐田市教育委員会事務局教育部文化財課



これまでの発掘調査の成果

遠江国分寺跡は、国分尼寺を含め昭和26年から約170回にわたる発掘調査を行ってきました。その成果をまとめると、次のようになります。

- ①お寺の規模は南北259m、東西172mです。その内部に塔以外の主要建物が南北に一直線、左右対称に配置され、塔だけは西側に単独で建てられました。建物のうち、塔・金堂・講堂・回廊・僧房の基壇（土台部分）の正確な位置と規模がわかっています。金堂の正面には石製の階段が付けられていました。塔については心柱を中心として17本の柱からなる間取りも判明しています。
- ②主要伽藍のうち、構造が判明した建物すべて（塔・金堂・講堂・回廊・僧房）が木装基壇で建設されていました。
- ③お寺の外側には幅1.5mの築地塀がめぐっていました。
- ④塔と金堂院だけが819年に火災に遭い、焼けた建物は再建されずに講堂などを使って経営していました。その後、講堂は1022年に大風で倒壊し、6年後に再建されています。
- ⑤金堂の壁材に火山灰を使用していました。この火山灰は東遠地方で採取されたものです。
- ⑥金堂の正面には木製の支柱を持つ灯籠がありました。
- ⑦塔の初層が塑造仏像群（粘土を焼かずに形作った仏像。その仏像で仏教の創始者である釈迦の人生のワンシーンをジオラマ風に描いたと考えられる。）で飾られていました。



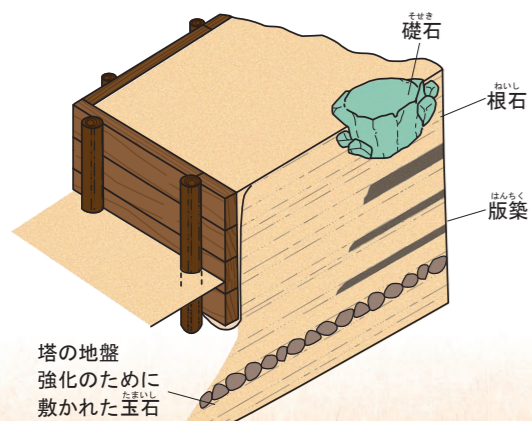
金堂の階段(石段)



塔本塑像(上左)と復元イラスト(上右 菩薩とした場合)



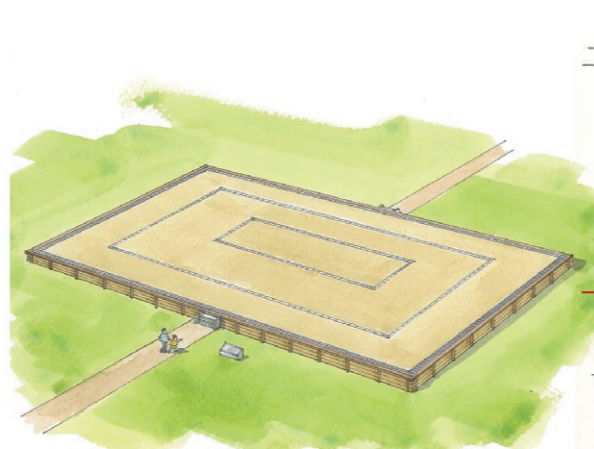
金堂の焼けた木装基壇(上)と木装基壇の模式図(左)



塔の地盤強化のために敷かれた玉石



国分寺公園の完成予想図



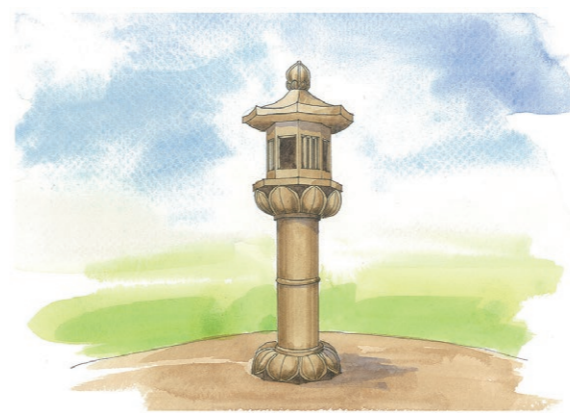
金堂や講堂などの中心的な建物すべてが木装基壇で造られていました。木装基壇を擬木によって再現します。



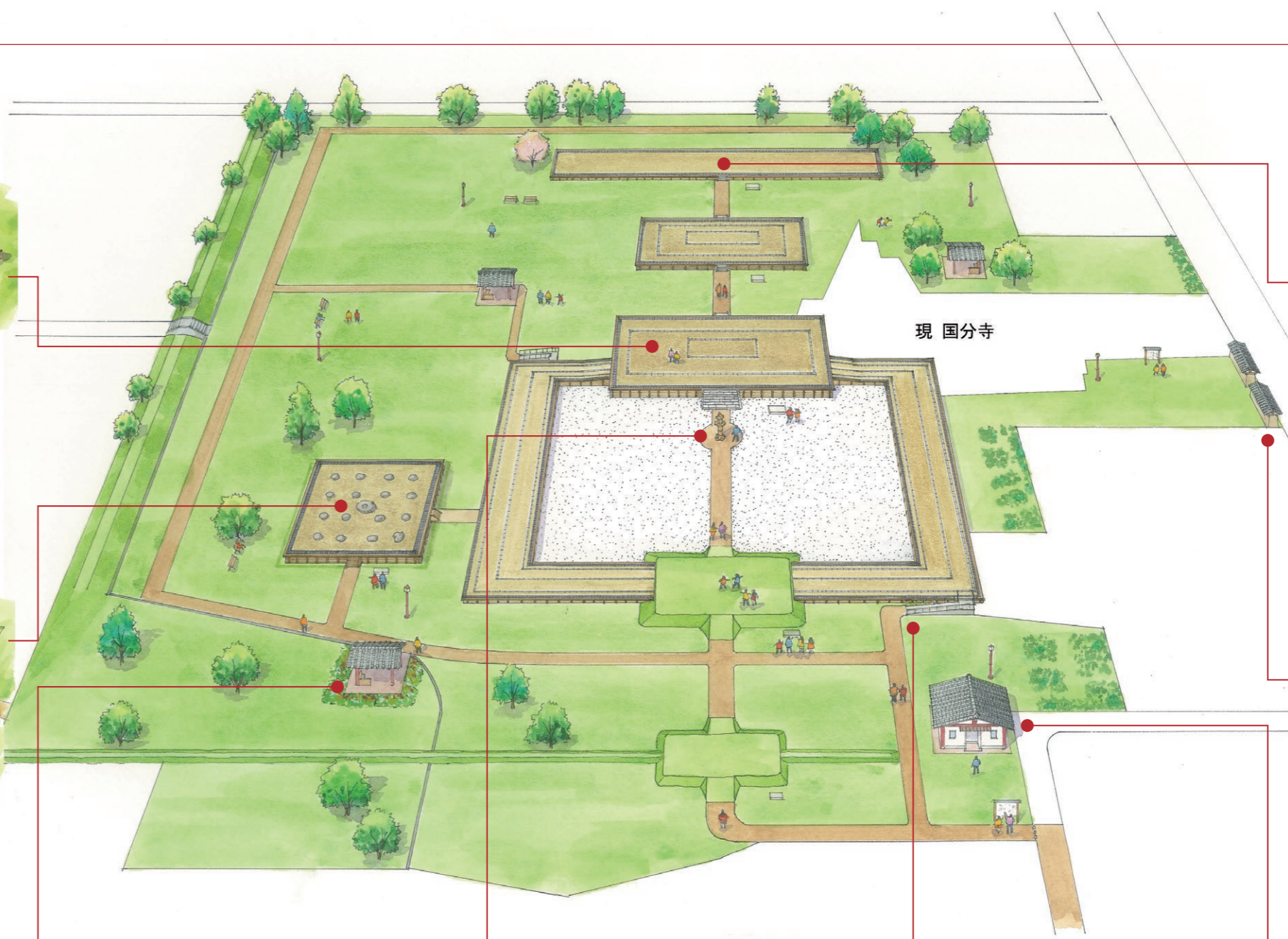
七重塔跡は礎石の一部が残っており、当時の間取りがわかっています。その間取りを表示します。



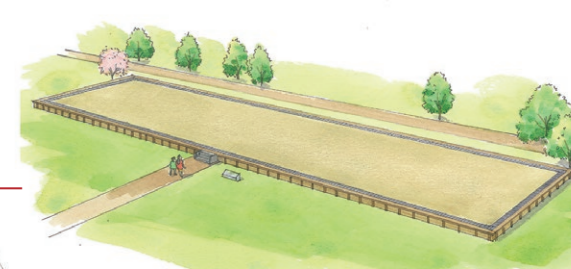
あそびや四阿を3箇所に設けて、公園に集う方々の休憩場所としてお使いいただけるようにします。



金堂の正面に置かれていた高さ3mの木製の灯籠を再現します。



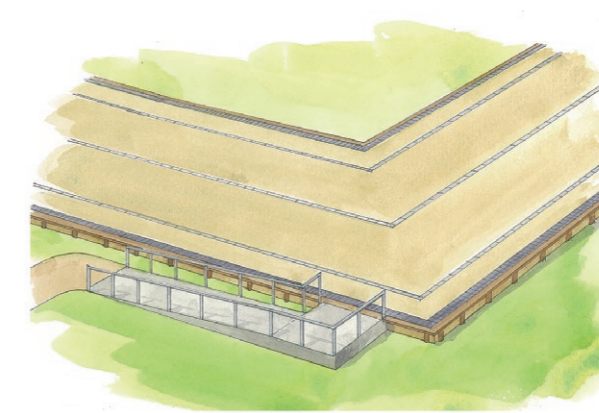
現 国分寺



僧房も木装基壇で造られていました。擬木によって再現します。



県道沿いの一部に築地塀を再現します。



回廊も木装基壇で造られていました。なお、スロープを一部に設置し、誰もが使いやすいようにします。



公園の入り口に景観にマッチしたトイレを設置します。また展示スペースを設け、パネルで国分寺の概要を説明します。